

# 高知県PTA新聞

〈発行所〉  
高知県小中学校PTA連合会  
塩見記念青少年プラザ内  
高知市小津町6-4  
TEL 802-7004  
FAX 802-7009  
E-mail  
ken-p@kochi-pta.com

〈発行責任者〉  
仙頭竜太  
広報委員会

## 第七十二回 日本PTA全国研究大会 川崎大会に参加して

高知県小中学校PTA連合会会長 仙頭竜太



私は令和六年八月二十三日〜二十四日に川崎市とどろきアリーナにて開催された第七十二回日本PTA全国研究大会に参加しました。この大会は全国のPTA関係者が一堂に会し、日々の活動の活性化に向けてさまざまな実践や情報を共有するも

りです。今回のメインテーマはみなさんも最近よく耳にする言葉でもあるでしょう「ウェルビーイング」です。この概念が、子どもたちの豊かな教育環境を実現させるため、子どもたちにとって重要な学び、討議する場となりました。

大会初日の開会式では、(公社)日本PTA全国協議会長の太田敬介氏や神奈川県川崎市長の福田紀彦氏からのあいさつが行われ、PTA活動の意義を再確認、再認識させられる内容でした。続く基調講演においては、教育関係者や社会企業家の方々が登壇され、昨今の教育現場における重要な問題である「いじめ・不登校」についての現状や実際に行われている対策事例に関する議論が交わされました。親の持つ価値観が子どもに大きな影響を与えること、それが前述のような問題の発生にも、予防解決にもつながること、親子のコミュニケーションのなかでお互いに自己肯定感を高め、いくことの重要性などが印象に残りました。

「ウェルビーイング」とは「単に疾病がない状態」ということではなく、身体的、精神的、そして社会的にすべてが満たされた状態」ということだそう

です。子どもたちの健全な成長を願えば、とても重要なことであることはわかりませんが、この現代社会での実現は簡単なものではないでしょう。子どもたちだけでなく、私たち保護者や教職員のみなさんともに幸せな環境であることの実現が求められます。

この大会のシェアタイム等のイベント内で全国各地のPTA関係者のご意見や平日頃の活動内容を聞けたことは大きな財産となりました。PTAとして目指すものは同じであっても地域によって取組方がさまざまであることを目の当たりし、高知県ではどのようにPTA活動を進めていくべきかのヒントをいただいた気がします。

家庭、学校、地域が一体となつて子どもたちの健全なる成長を支えるための大きな要素である「ウェルビーイング」を高知県小中学校PTA連合会の取組に活かしていきたいと思えます。

### 県P連からのお知らせ

#### 二〇二四年十二月十四日(土) 「土佐の子育て交流会」

■講師 野崎 浩平氏  
(私立土佐塾中・高等学校教諭  
一般社団法人ハンズオン代表理事  
■演題  
「子育てで大切にしていること」

## 令和六年度 高知県小中学校PTA連合会・ 高知県小中学校長会懇談会に参加して

高知県小中学校PTA連合会副会長 公文順子

令和六年七月三十日、中部教育事務所高知県小中学校長会事務局にて、令和六年度高知県小中学校PTA連合会・高知県小中学校長会懇談会が開催されました。

この会の趣旨は「高知県小中学校PTA連合会と高知県小中学校長会の各役員が意見交換を通じて相互に理解を深めることにより、当面する本県の教育課題解決と二十一世紀を心豊かに生き抜く児童・生徒を育てることのできる教育の確立を目



指し一層の連携を図る」とされています。

県P連の会長・副会長が保護者の代表となり高知県下の小中学校の各地区代表の校長先生たちと直接お話しをさせていた

ただ貴重な機会、どんな対話が繰り広げられるのだろうと期待と緊張が膨らみます。高知県教育委員会事務局生涯学習課長、県P連会長、県校長会長からの意気込みを感じた。次に県P連、県校長会より事業内容の説明があ

りました。県校長会では研究主題として「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る児童・生徒を育てる学校教育の推進」を掲げ、教育活動にあたられているということでした。

現在、人類の歴史上一〇〇年で変わる変化が二十〜三十年で起こっていると言われるくらい時代は大きく変化しています。学校現場においてもその時代の流れに追いついていくことは難しく、大きな組織であればあるほど今まで組織化された体制を変化させていくことは並大抵のことではありませぬ。課題のひとつ「教職員の資質・指導力の向上」をとっても、教員もさまざまな個性があり、ひとつの枠組みでは対応しきれない時代に、校長先生たちの取組への覚悟と真剣さは計り知れませぬ。

一時間程度の意見交換では「県校長会と県P連とのこれからの連携の在り方について」「教員と児童・生徒とのコミュニケーションで普段から感じていることをそれぞれ対話

させていただきました。「保護者と教員のコミュニケーション」をとり、信頼関係を高めることで、本音で語ることでできるPTAにしていくことと、「PTAは子どもたちの応援隊」であるとともに、「先生たちの応援隊」であることの大切さを感じる機会となりました。

これからのPTA活動を考えたとき、保護者が義務として捉えてしまう活動ではなく、楽しみながら子どもと学校の変化や成長を感じられる活動にしていくことが必要であり、持続可能な活動にしていくことが私たち地区PTA会長兼県P連役員の果たすべき役割であろうと感じました。そのためにも子どもを中心に、教員・保護者・地域をコネクト(つなぐ)ことを意識し、多くの人々や機関、組織を巻き込み、主体的で協力的なPTA活動を創っていきたくと決意する懇談会となりました。PTA活動に参加していたいていみなさまにおかれましても、このような機会があることを知っていただき、来年度以降も「伝えたいこと」を直接届けることができると、懇談会に多くの方が参加し、それぞれのPTA活動につなげていただければと思います。